

在宅で最期まで 安心して暮らせるために

Vol.1

市在宅医療・介護連携会議(健康福祉課内) ☎(25) 1182

医療や介護について考えよう!!

超高齢社会が進み、平均寿命も80歳を超え、慢性疾患を複数抱えている高齢者が多くなっています。これからは、病気と共存しながら、生活の質の維持・向上を目指し、地域全体で支える医療・介護のありかたを検討していく必要があります。

「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」アンケート調査結果

市では、4月に「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定するため、高齢者にアンケート調査を行いました。在宅医療の項目で最期を迎える際の希望する場所をたずねたところ、5割以上のかたが「自宅」と回答されました。(図1)しかし、介護を必要とし、治る見込みのない病気になった際、自宅で最期まで療養できると尋ねたところ、5割以上のかたが「できないと思う」と回答され、次いで約3

割のかたが「分からない」と回答されました。(図2)

その理由については、「介護してくれる家族に負担が掛かりすぎる」が65%と最も多く、次いで「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」が50%、「症状が急に悪くなったときにすぐに病院に入院できるか不安である」が38.8%となっております。(図3)

この結果から、本当は「最期まで自宅で生活したい」と思っているのに、家族に負担が掛かることや、急変した時の対応に不安があるため、ちゅうちょしている状況が分かってきました。

在宅医療・介護連携会議を開催

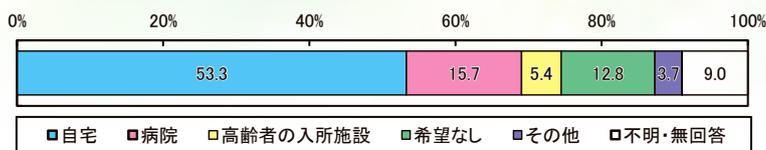
超高齢社会となり、市では高齢者のかたが住み慣れた地域で安心して生活できるように、さまざまな事業を検討しています。

その1つとして、平成25年5月に、志摩医師会や介護事業所と協力し「在宅医療・介護連携会議」を立ち上げ、アンケート調査結果の内容なども含め、どのように医療と介護が連携し合えば、高齢者のかたが在宅で安心して生活できるか検討しています。

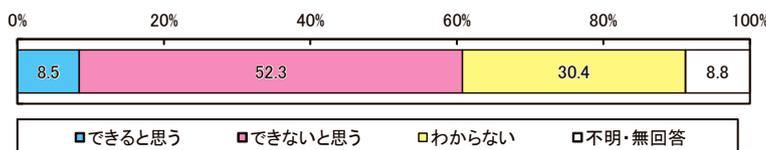
これから5回シリーズで、「在宅医療・介護連携会議」の様子や、どのように医療や介護を利用すれば安心して在宅で生活できるかについてをお知らせしていきます。



(図1) 最期を迎える際の希望する場所



(図2) 介護を必要とし、治る見込みのない病気になった際、自宅で最期まで療養することができるか



(図3) 自宅で最期まで療養できない理由

